

★川崎市浮島の沖にある風の塔はシーバスジギングの好ポイント

▶フールで食わせた50センチ級  
▼タダ巻きで40センチ前後が連発



▶1本釣れてひと安心

完全にギア比の合う・合わないが釣果に響いたね……

#吉岡進の新世代沖釣り紀行vol.20

# ツリポチ!

## 東京湾のシーバスジギング

撮影/文◎本誌編集部

★終盤に50センチ級のシーバスをキャッチ。ヒットルアーはシーバスアンチョビメタル80グラムのラメイワシカラー

いやあ、シーバス侮れないね。だから面白い!



▲表層までジグを巻き上げて食わせたところから食ってきた  
▼ストラクチャーなどを狙うことが多いので、当日は片舷に並んで釣りをした



ヨッシーこと吉岡進がエサ、ルアー釣りを問わず、様ざまな釣り物にガチでチャレンジしていく当連載。第20回はヨッシーが得意とする東京湾のシーバスジギング。12月中旬、シーバス乗合をスタートしたばかりの東京湾奥川崎つり幸より出船した。

水野聡船長が向かったのはシーバスアス周りの水深20メートル前後。ヨッシーは開始早々に船下にジグを投入して1本目をキャッチする。

その後はアタリが遠のき、東京湾アクアラインの橋脚周り、風の塔などを転々とするが、潮が動いていないためか、魚探に反応があってもシーバスが口を使ってくれない。

シーバスをスイッチを入れたのは、おれだからならぬ

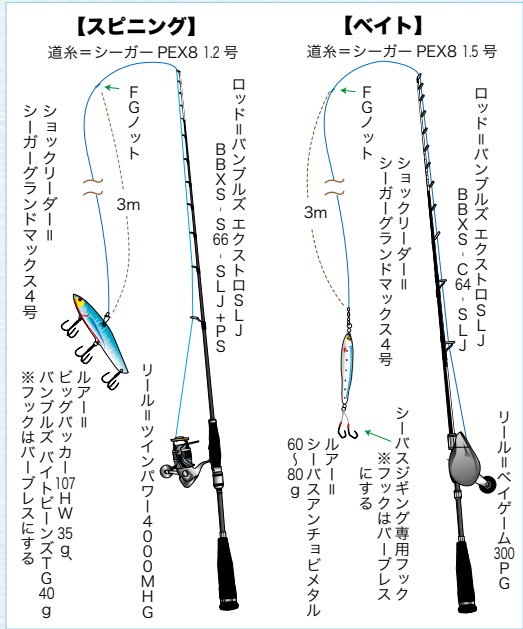


Profile  
◆よしおか すずむ 1982年生まれ。ヨッシーの愛称で親しまれている。一ツテンヤマダイ、ライト系オフショアルアーを得意とする。ジャッカルソルトプロスタッフ、シーガーインストラクター。

◆本編(62ページより)は高橋剛が執筆。沖釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします!



# シーバスジギングタックル



▲ベイトタックルが基本だが、ポイントによってはキャストすることもあるので、スピニングタックルも用意できれば釣りの幅を広げることができる



▲ジグはシーバスアンチヨビメタルの60~80グラム。安全面や、魚体をなるべく傷つけないためにもカエシは濃しておく



▲釣り上げるたびにサイズアップし、最後は50センチ級をキャッチ



▶東京湾アクアラインの橋脚を狙ったがアタリはなかった

だが、食い始めたときと同じぐらい唐突に、食いが止まった。



▲アベレージは40~45センチ前後



◀羽田沖のオープンエリアではベイトに着いたシーバスがよく釣れた



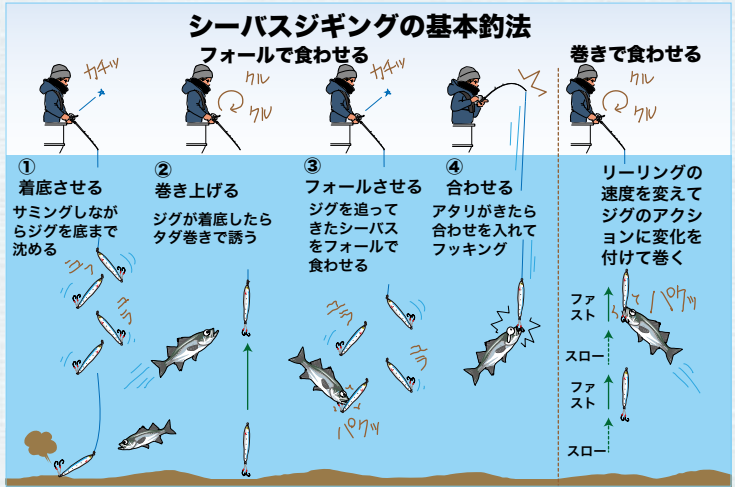
▶巻き上げからのフォールでバイトしてきた  
▼ボトム付近でカサゴが食ってきた

## シーバスジギングの釣り方イメージ

●ジグを投入し、着底したら糸フケを取る。水深の半分ほど巻き上げてジグを追わせてフォールさせると、ジグがヒラッと落ちたときに食ってくる。フォール中に道糸の出が止まったり、ジグが落ちなくなったらアタリなのでスプールを親指で押さえて合わせを入れる。巻きで誘うときは巻き上げ速度を早くしたり遅くしたりして変化を付けよう。



▲フォール時はサミングするとアタリが取りやすい

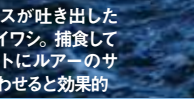


▲風の塔では巻き上げでもフォールでもよく釣れた  
▼羽田沖ではアンダーハンドでジグをキャストし、広く探るパターンで釣れた

口を使わなくなったシーバスに対し、巻き速度を変えながら挑んだヨッシー。詳しくは62ページから始まる本編にて。

シーバスの警戒心が高まるのか、アタリが遠のいてしまった。

ところがバラしてしまうとシーバスの警戒心が高まるのか、アタリが遠のいてしまった。



▲シーバスが吐き出したカタクチイワシ。捕食しているベイトにルアーのサイズを合わせると効果的

## #船宿インフォメーション

東京湾奥 川崎 **つり幸**  
☎044-266-3189  
(詳細は巻末の情報欄参照)  
●料金=シーバス予約乗合一人1万円(水付き)、レンタルタックル500円  
●備考=6時50分出船、木曜定休

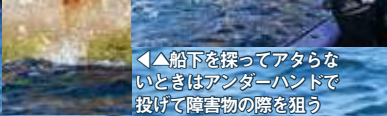


▲6時までに船宿へ行き、店前にある乗船名簿へ記入して店内で受付を済ませてから乗船する

◀親切に釣り方を教えてくれる水野 聡船長



ハイギアに替えたら一発だったね(笑)



◀船下を探ってアタらないときはアンダーハンドで投げて障害物の際を狙う

★SLJ(スーパーライトジギング)用タックルでのシーバスとのヤリトリはスリリング